

「キユ、キユ」
 二条城に入ったとたん音がなりました。私はうぐいすばりという事は知っていたけどどちよつとびっくりしました。うぐいすばりは敵が侵入してきたら「キユキユキユ」となって城内の人に教える役目をしていきます。昔の人はそういう技術をもっていてすごいなと思いました。少し歩いていくと塩野さんが上を指さして

「あれは表と裏でちがう彫刻がされているんですよ。」
 と言われて上を見てみると、キジが彫刻されていました。その彫刻のキジは羽を広げている様子ががていねいに彫刻されていました。

部屋のふすまを見ていると塩野さんが「昔の人はトラとヒヨウを見たことがなくて同じネコ科だから仲が良いと思っていてふすまにじゃれあっている様子を書いているんだよ。」
 と言っていたけど私はトラとヒヨウを見たことがあるから今では信じられない光景だと思いました。その絵は虫や貝などで作っていると言っていたのでどうやったらそんな物で色を出すことができるのかなと思いました。

塩野さんが歩きながら、「二条城の部屋は何部屋あると思う。」と聞かれたので当てずっぽで、「三十部屋くらい。」

と言ったら二十三部屋でおしかったです。全部で何畳あるのかなと思っていると看板に八百畳以上あると書いてあったので私の家の何個分くらいあるのかなと思わず計算しました。

しばらくドンドンとなっていたけどまたうぐいすばりになって、キユキユとなりました。



出口に出たと思ったらまた、入口にもどっていました。二条城のしくみはどうなっているのかなと思いました。私はこんな場所はめったにいけないのでいい思い出になったと思います。

「あつ、ここ来たことがあるよ。」と、友達と話しながら入口を入りました。ぼくは、奈良にいる時に遠足で海遊館に来たことがあります。何度来てもわくわくします。

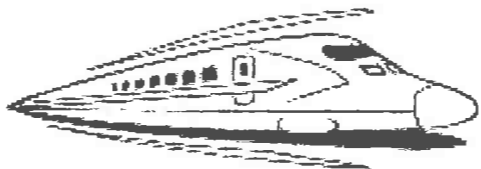
まず、ぼく達は水槽のトンネルを通りました。隣にいた翔貴君が、「僕の頭の上を魚が通っているよすごいな。」

と言いました。普段は魚を上横から見ませんが、下から魚の腹を見ることができるよう工夫されていました。

海遊館の目玉はジンベイザメです。ぼくは、修学旅行に行く前に海遊館のことを調べて二匹いるジンベイザメの名前も知っていました。「大君」と「海君」です。水槽越しに見てもくいついてきそうでも迫力がありました。ジンベイザメは世界最大級のサメで、海遊館のジンベイザメは四メートルでした。水槽の中をとってもゆうがに泳いでいてとても気持ち良さそうでした。

修学旅行

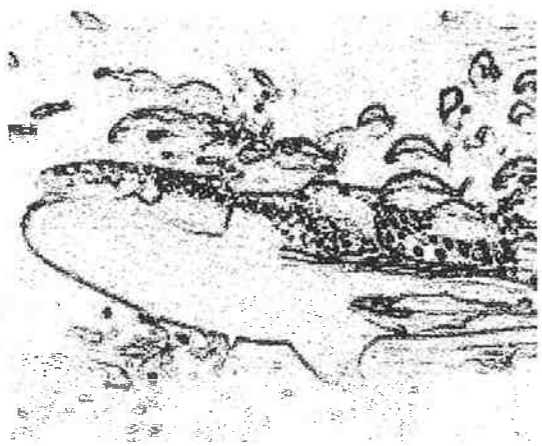
H20年 9月



深小 6年生

同じ水槽にエイもいました。空に翼を広げているように泳いでいました。あの翼の上に乗って水槽の中から、見ている人を見てみたら気持ちいいだろうなと思いました。

海遊館には、他にもたくさんの生き物がいて、時間があつという間に過ぎていきました。とても見きれないほどでした。修学旅行を通して友達とたくさん話をしたり、一晩を一緒に過ごしたりしてとても良い経験になりました。とっても楽しかったです。

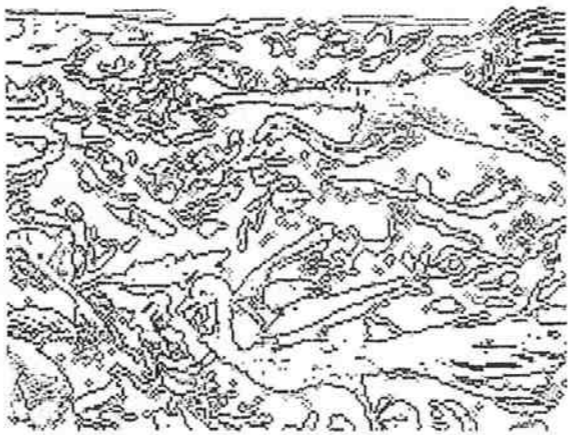


「京都の町は囲碁をする碁盤のようになつていんですよ。」と、タクシードライバーの塩野さんが教えてくださった。また、京都にはたくさんのお寺などがあり、昔京都は栄えていたということが分かりました。

二条城に着いて中に入ってみると、キユツ、キユツとゆかが鳴りました。これはうぐいす張りと言つて、城に敵が入つて来たとしても分かるようにと造つたそうです。

それに、城のろう下は曲がついていたり、分かれ道になつていたりして、敵が入つてきてもすぐには来させないようにしていたということがよく分かりました。奥の方に進んで行くと、武器を置いためだけに造られた部屋や、手土産をもらう部屋など、たくさん部屋がありました。二条城の部屋は、全部で三十三部屋もあるそうです。

かべの上にある彫刻には、きじとポタンの花が彫られていました。彫られている木は厚さが三センチくらいで、すべてを手作業でしているの、昔の人の技術はすごいなと思いました。



ろう下にあるかべには、赤や白の花がえがかれていました。でも昔は絵の具などないので、昔の人は貝をけずったもので白をぬつたり、赤いさなぎをつぶして赤をぬつたそうです。

しかし、技術がすごい昔の人でもまちがえていることがあります。二条城には絵がかかれています。ふすまがありますが、それにはトラとヒヨウがじゃれあつていたり、ふつう、トラとヒヨウはじゃれあつたりなど。昔の人はねこ科で姿が似ているため、大きいトラはオス、小さいヒヨウはメスと考えていたそうです。

塩野さんは、「昔の人は本物のトラとヒヨウを見たことがなかったから想像してかいたんだよ。」

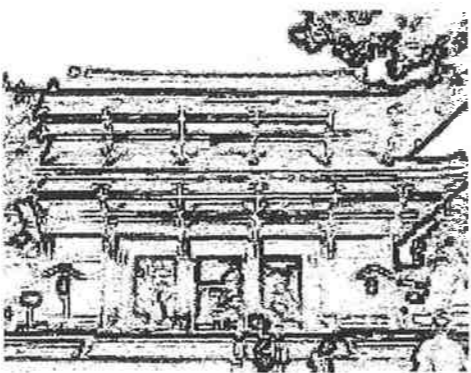
と言っていたので、私はすぐれた技術をもっている人でもまちがいをすることはあるんだなあと思いました。もしこんど京都に行ったら、次は二条城だけでなく、ほかの寺などに行つて勉強したいです。

六年生のもんで行った修学旅行は、とても楽しかったです。

大仏がすごい東大寺

竹野 遼一

「東大寺には、鹿がいっぱいいます。」と言う塩野さんの声でジャンボタクシーから降りてみると鹿や人でいっぱいでした。迷子にならないように必死で塩野さんについていくと大きくて迫力がある東大寺の門が見えました。写真でみるよりすごく迫力がありました。(でも、東大寺には鹿と人だけでなく鹿のふんもありました。)門をぐぐりぬけると、大きな大きな大仏様が見えていました。よく見てみると大仏の横に中くらいの大仏がありました。塩野さんについて行くと、小さな正方形の穴が柱にあいていました。塩野さんが通れたら頭がよくなると言われたので、通ってみると楽に通れました。これで頭がよくなると思います。大仏の頭のぶつぶつは、「らほつ」というようで大きさが子供の頭ぐらいあるそうです。外に出てみると赤い服を着た大仏がありました。中にあった大仏より小さかったです。塩野さんによるとその大仏はけがした時に、けがをした所をさわると早くなおると言われているそうです。



自由時間が来ました。ぼくは最初に、鹿せんべいを買に行きました。鹿せんべいは、百五十円と少し高かったです。これが鹿せんべいかと思いつつ後ろをふり向くと、鹿に囲まれていました。逃げるとついてくるので小さくちぎって逃げました。もう一回鹿せんべいを買いました。今度はうまくあげることができました。東大寺は、いい所でした。また東大寺にいつてみたいですよ。ぼくたちは、修学旅行をおして、東大寺の大切さや歴史を学びました。

思い出に残ったUSJ

多田 翔貴

「いやだ、いやだ。」と原君が言いました。ぼくは、原君と先生とジェットコースターに乗りました。ぼくも、ほんとは、こわかったけど少し乗ってみたいと思つたので乗りました。だんだん歩いていくにつれてどきどきしてききました。気持ちやわらげるために、原君といる話をしたけどずっとどきどきしていません。乗ったら、言葉がでなくなりました。上にあがっていくにつれて帰りたいと思っていました。おちるときは死んでしまうのかと思いました。想像していた以上にこわかったです。そしてやっとおわりました。ぼくが、原君に「あーこわかった」と言うと原君は「もうぜつたいのらん」と言いました。でも乗ってよかったと思えました。



次にジュラシックパークに乗りました。待っているときにのどがかわいたけど缶ジュースが二百五十円もしたので買うのはやめました。こわかったのは最後まででした。まわりは真つ暗で何も見えないときに九十度みたい落ちるのころ写真でとられていたけどぼくの顔は、ものすごくあせっている顔でした。だからジェットコースターに乗ったときもあせった顔になっていたのかなあと思いました。ぼくは、「ジェットコースターに比べたらこわくなかったね。」と言うと「前、乗ったときよりこわくなくて良かった。」と言っていました。今度は、家族みんなで乗りたいと思いました。最後にのみやげを買って広島に帰りました。今度きたときは、スパイダーマンやバツクトゥーザビビューチャーとかのものりたいです。修学旅行は思っていた以上に楽しかったです。またいい経験もできたとし勉強にもなりました。今度は家族で行きたいです。

鹿がいっぱい東大寺

斉藤 千有希

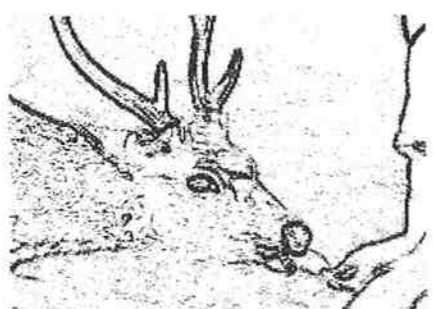
「間もなく三番乗り場に電車がまいります。危険ですので黄色い線の内側までお下がり下さい。」というアナウンスが鳴りすぐ電車が駅に入ってきました。福山駅から京都駅までは長いので美佳ちゃんも瑞月ちゃんも大富豪というゲームをしました。何回か勝ちました。セブンブリッジというゲームは、けっこう勝ちました。京都駅に着くと、ジャンボタクシー運転手の塩野さんにあいさつをしました。

二条城では、「みなさんも知っているとしますが、ここ二条城では歩きたびにキュッキュツという音がします。これは二条城に敵が侵入してきた時その音で場内の人々に知らせるために設置されているんですよ。」と塩野さんがくわしく教えて下さいました。その他にも、それぞれの部屋の役割や、二条城の歴史などを教えていただき、塩野さんは物知りだなと思えました。

金閣寺は世界文化いさんに登録されていない事や、屋根の上のほうおうが七つの生物が合体してできているという事を始めて知りました。

東大寺では、大仏が想像していたよりもずっと大きくて驚きました。手の平は上で人間がすもうをとれるくらい大きなそうです。鼻の穴を通るのは初めてでドキドキしていたけどいざ通ってみると、意外とすんなりいけたので、ほっとしました。

外に出ると、鹿があふれるくらいいっぱいいました。「す：すごい」と思わず言いました。子ども鹿や、たくましい角をもっている鹿もいました。



鹿せんべいを買うと、すぐ鹿が集まってきたので、鹿せんべいをあげました。おいしそうに食べている姿がものすごくかわいかったです。

古い街並清水寺

田中 聖也

「清水寺は、沢山のお店や人がいっぱいだなあ。」これが、ぼくの第一印象でした。ぼくは初めて、修学旅行で清水寺に行きました。

始めに、バスを降りて歩いて行きました。すると、お店と人が、沢山いました。そして、上に行くと、清水寺が見えて来ました。バスガイドの塩野さんが、「清水寺はすべて木で、作られているよ。」

と言っていました。そして、清水の舞台を降りていくと、水が流れていました。その水は全部で、三種類ありました。



一つの水は健康。二つの水は、勉強。三つの水は、恋愛です。ぼくは健康を飲みました。ぼくは、普通の水は、味がうるさいけど、清水寺の水は、凄くおいしかったです。みんなもおいしそうに飲んでいました。

そして、かいだんを降りてお土産屋さんで、買い物をしました。始めにおみやげ屋に行きました。順番に歩いて行くと、試食コーナーがありました。すると、チョコやラムネなどの八橋が沢山ありました。ぼくは、家族にチョコを買いました。みんなもおみやげを買いました。

次のお土産さんは、飾り屋さんです。ぼくは、黄金の剣とおみくじを買いました。遼一君は誠という漢字のリストバンドを買いました。翔貴君は箱の中に入っている清水寺です。千有希君は日本刀を見て、「すっごいなあ。あれ買いたい。」とっていました。

ぼくは修学旅行でたくさん勉強ができました。また、みんなといっしょにすごせて楽しかったです。